

株式会社 I D A

(アイディーイー)

会社概要

- ・所在地 神奈川県横浜市
- ・業種 時計小売業
- ・資本金 450万円
- ・設立 1947年1月
- ・従業員数 3人
- ・URL <http://www.ida-watch.com/index.html>

1 老舗時計店の転換期

同社は、舶来品の集う横浜元町で営業する老舗時計店である。1903年の創業から、戦後の高度経済成長期にかけては、海外の高級腕時計をメインに販売していた。

100年以上に渡る同社の歴史において、一番大きな転換期は1970年代、いわゆる「クォーツショック」の時期に訪れた。国内メーカーによる安価で正確なクォーツ式の腕時計の普及が進み、以前は高級品であった腕時計が身近な日用品としての位置づけに変わっていったのである。さらに、多種多様な品揃えを可能にした量販店の台頭もあり、昔ながらの時計店は価格・品揃え両面での競争力を失いつつあった。

2 ブランド開発、香港へ

こうした状況の中で3代目の現社長である、井田彰氏（65歳）は、「帽子や靴、アクセサリーだけではなく、腕時計もファッションに合わせて付け替える時代が来るに違いない。しかしながら、国内メーカーによる腕時計は、デザイン面で欧米の高級時計に大きく劣っている。それならば、魅力的なデザインを備えた腕時計を提供するべく、自社でブランドを立ち上げよう」と考えた。

ブランドのコンセプトは、「ユニークで遊び心のある時計」。このコンセプトを製品としてカタチにするべく、井田社長がアプローチしたのは香港のメーカーであった。当時イギリス領の貿易港として発展していた香港には、欧米の腕時計のデザインを担当している香港メーカーが多く存在しており、デザインやアイデア面で斬新なものを有していたのである。

3 モノづくり、議論を尽くす

香港での開発を進めるにあたり、条件の合う4～5社を選定し、取引を開始した。腕時計の開発に際しては、アイデアのスケッチからデザインへの落とし込み、サンプルの製作、修正をかさねてようやく製品が完成する。

井田社長は品質にこだわりを持ち、文字盤の装飾にも手を抜かずに、長く使える腕時計をつくりたいと考えていた。そのため、仕上がってきたサンプルに対して繰り返し修正を求めたが、文化や商慣行の違いから、香港メーカー側の反発も少なからず生じてしまった。そこで、井田社長が重視したのが、フェイスツーフェイスのコミュニケーションを通じた、「つ

くりたいモノ」に対する感性や想いの共有である。商品のアイデアについて、スケッチを見せながらしっかりと意見を交換し、議論を尽くす中で、香港メーカーによるサンプルは、井田社長の思い描く製品のカタチに一歩一歩近づいていった。

そして1975年、8ヵ月間に及ぶ開発期間を経て製品第一号が完成。ブランド名は井田社長にちなんで、「fw」（field「田」とwell「井戸」の頭文字をとったもの）と名付けられた。「fw」はその後、マスコミにも取り上げられ、若者中心にファンを獲得、今では約48種ものラインナップを揃えるまでに成長している。



デビュー当初の「fw」クラシックモデル

4 対話により情報と喜びの共有を

同社は製品を全て直販とし、特に店舗やデパートの催事での販売に力を入れている。「遠方での催事は手間もかかるが、ユーザーとの対話の中で製品の魅力を伝える貴重な機会になっている」と、井田社長は話す。また、ユーザーからの要望は香港メーカーとも共有し、新製品開発に反映させる。こうした丁寧な姿勢は、全国の顧客から支持を集めている。香港メーカーも、「日本のお客さまの喜ぶ顔を想像しながら仕事ができ嬉しい」と話しているそうだ。

現在は井田社長の息子で、4代目となる慎也氏が製品開発を主導する。時代のトレンドを敏感にキャッチして、ハイセンスなモノを提供してきた同社のDNAは次世代にも脈々と受け継がれている。



同社110周年記念モデルの「fw」